

# 2013年3月期実績 及び2014年3月期見込

財務責任者  
見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。  
※各指標の注記は、slide30をご覧ください。

ひとの  
ときを、  
想う。



# 当資料取扱上の注意点

## 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます(なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません)。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更(増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等)、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

# 全社実績・見込

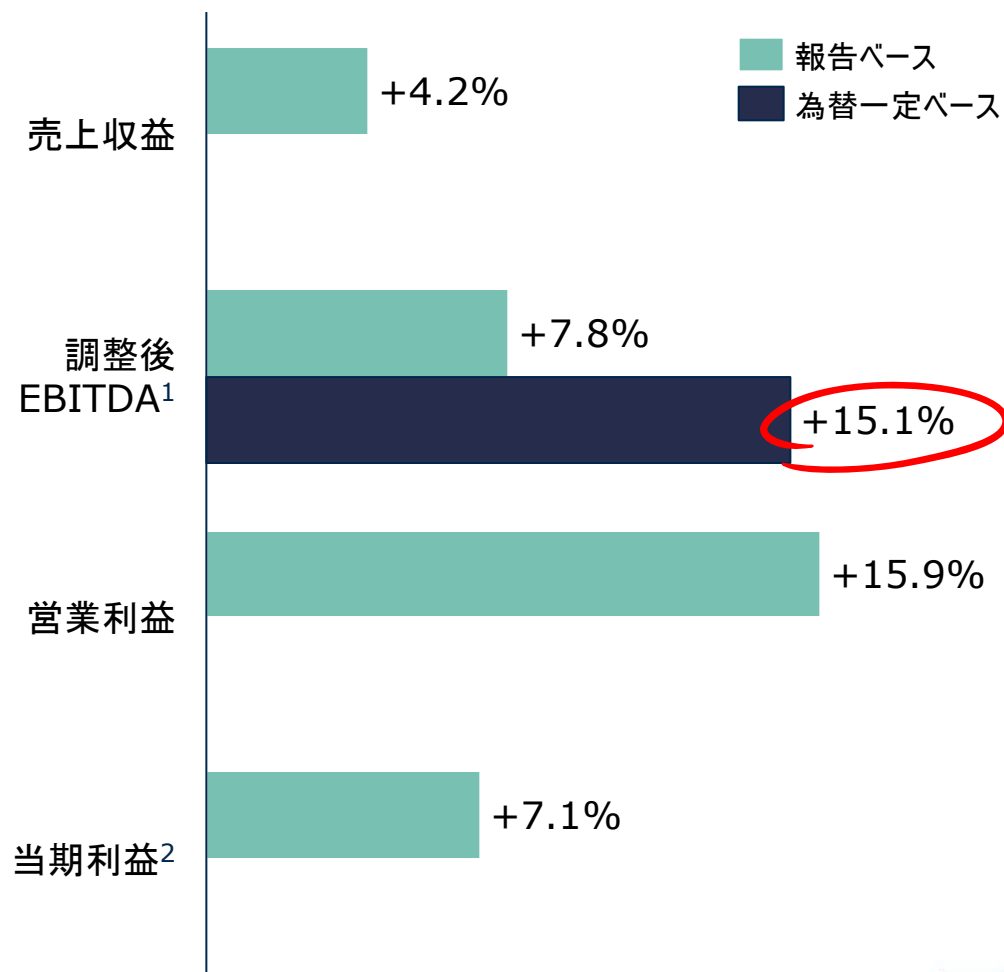
# 全社実績:

たばこ事業のトップライン成長に牽引され、力強い実績

## キー・ドライバー:

- たばこ事業のトップライン成長
  - 海外: 価格効果  
販売数量増加
  - 国内: シェア回復  
販売数量増加

主要指標成長率  
(2012年3月期vs2013年3月期)



全社見込：  
力強い事業モメンタムを継続し、過去最高益を見込む

(億円,%)	<u>2013年3月期</u>	<u>2014年3月期</u>	<u>対前年増減率</u>
売上収益	21,202	<b>23,680</b>	<b>+11.7%</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	6,221	<b>7,300</b>	<b>+17.3%</b>
営業利益	5,324	<b>6,160</b>	<b>+15.7%</b>
当期利益 <sup>2</sup>	3,436	<b>4,150</b>	<b>+20.8%</b>
FCF	3,160	<b>2,800</b>	<b>-11.4%</b>
<u>為替一定ベース</u>			
調整後EBITDA <sup>1</sup>	6,221	<b>6,600</b>	<b>+6.1%</b>

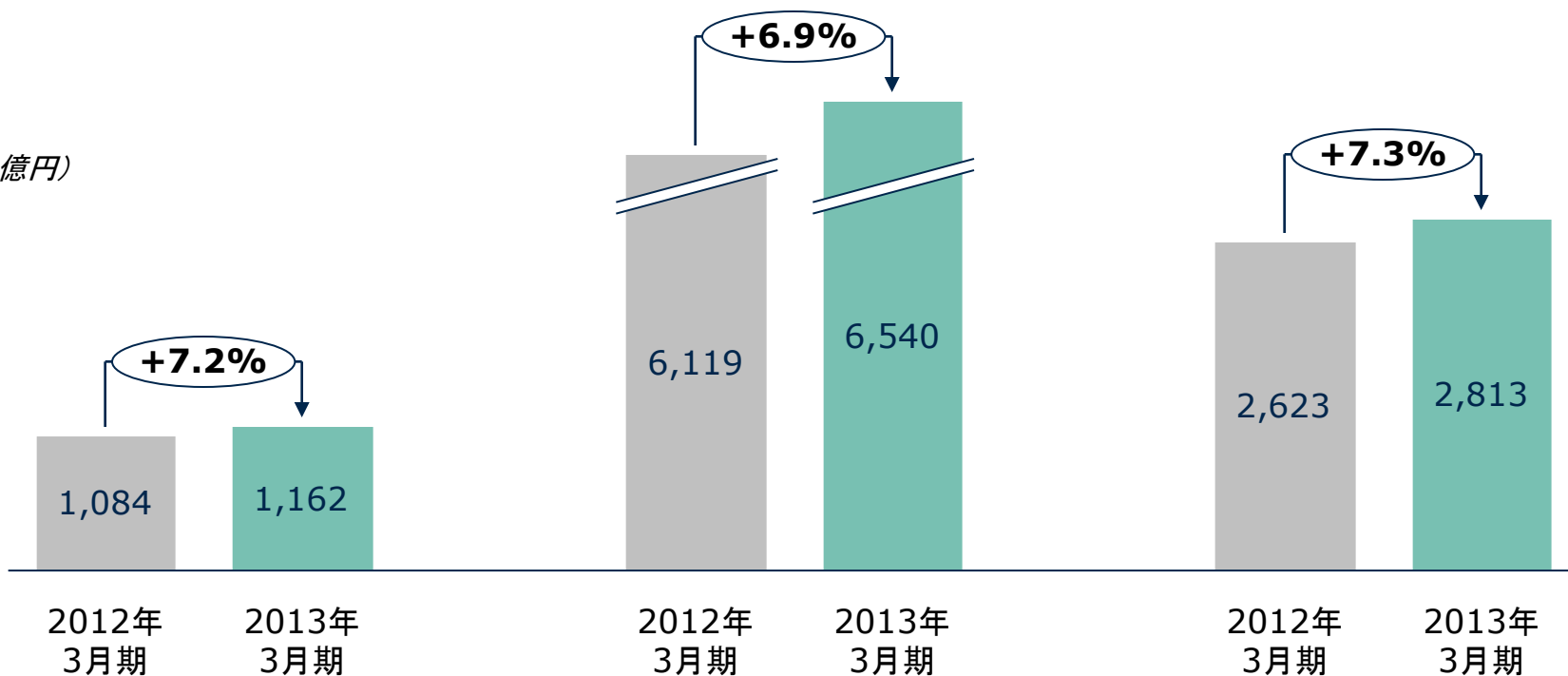
# たばこ事業

ひとの  
ときを、  
想う。 

# 国内たばこ事業(実績): 震災影響からのシェア回復に伴う販売数量の増加により増収増益

### 販売数量<sup>3</sup>

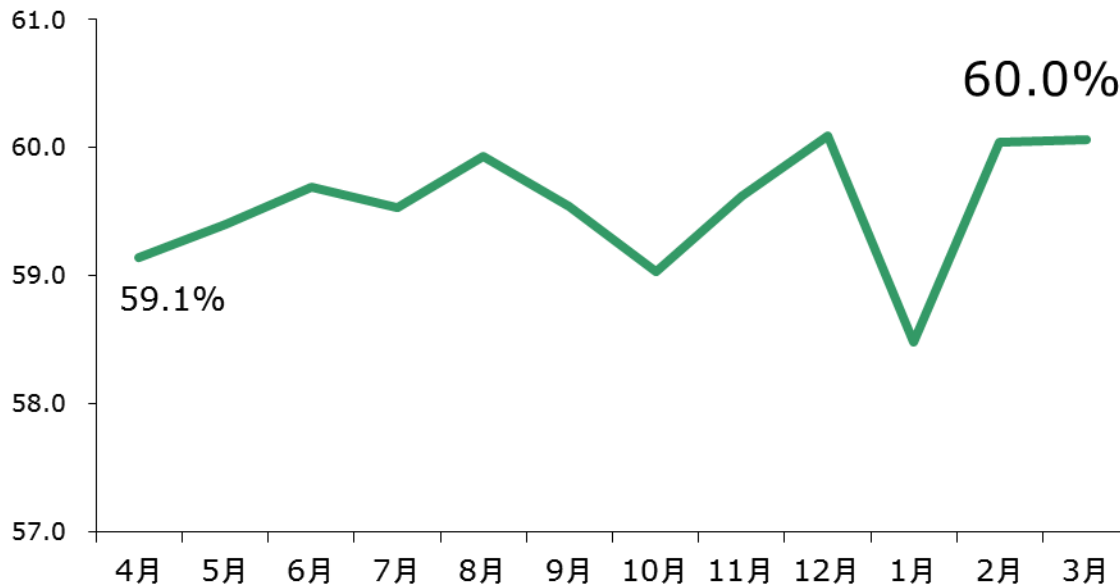
(億本、億円)



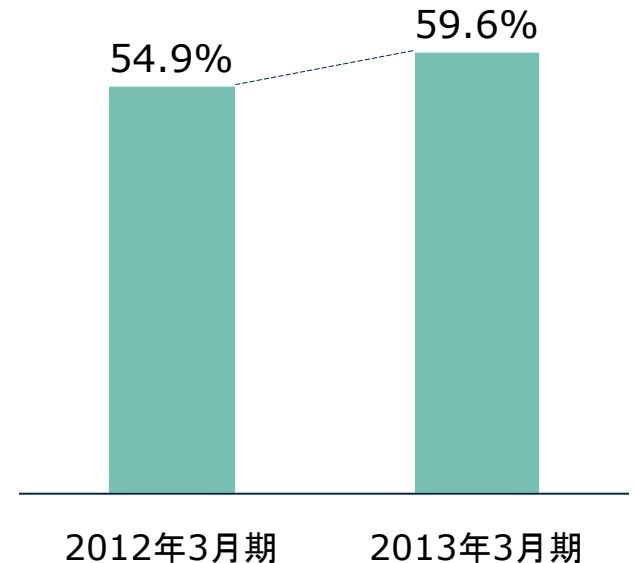
# 国内たばこ事業(実績)： ブランド・エクイティ強化に支えられた着実なシェア回復

- 2月-3月の単月シェアは60%に到達
- 対前年度+4.7pptのシェア回復
  - 2012年3月期:54.9% ⇒ 2013年3月期:59.6%

月次シェア推移



累計シェア推移



Source: TIOJ, JT内部データ

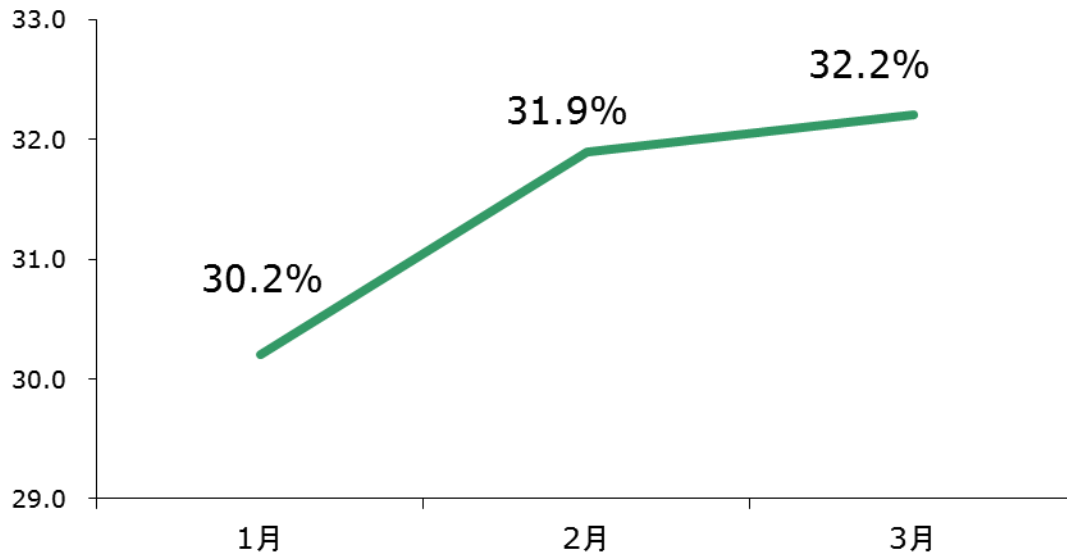
ひとの  
ときを、  
想う。 JT



# 国内たばこ事業(実績): MEVIUSへの移行はスムーズに完了

- MEVIUSのファミリーシェアは毎月伸長
- 高いトライアル率を獲得
  - ✓ MILD SEVEN非主喫のお客様の約30%が名称変更後MEVIUSをトライ(独自調査結果)

MEVIUS月次シェア推移



Source: TIOJ, JT 内部データ

このスライドは投資家に業績を説明する目的で作成されたものです。消費者へのたばこの販売促進もしくは喫煙を促す目的ではありません。

ひと  
ときを、  
想う。 JT

## 海外たばこ事業(実績) : トップライン成長に牽引され、確固たる業績を達成

(億本, 百万US\$, %)	2011年	2012年	対前年増減率
総販売数量 <sup>5</sup>	4,257	4,365	+2.5%
GFB販売数量	2,565	2,688	+4.8%
<u>為替一定ベース<sup>7</sup></u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	11,211	12,623	+12.6%*
調整後EBITDA <sup>1</sup>	3,944	4,830	+22.5%**
<u>報告ベース</u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	11,211	11,817	+5.4%
調整後EBITDA <sup>1</sup>	3,944	4,302	+9.1%
<u>円ベース (億円)</u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	8,946	9,431	+5.4%
調整後EBITDA <sup>1</sup>	3,148	3,433	+9.1%

\*急激なインフレに対応するための単価上昇効果(2パーセントポイント)を含みます。これは、当該通貨の大幅な下落影響を緩和する目的で実施したものです。

\*\*急激なインフレに対応するための単価上昇効果(6パーセントポイント)を含みます。これは、当該通貨の大幅な下落影響を緩和する目的で実施したものです。

ひとの  
ときを、  
想う。 JT

中長期目標と  
役割

- JTグループ利益成長の中核且つ牽引役として、中長期に亘って年平均mid to high single digit 成長を目指す
  - ✓ 国内:高い競争優位性を保持する利益創出の中核事業
  - ✓ 海外:利益成長の牽引役である、もう一つの中核事業

■ 質の高いトップライン成長を最優先

- ✓ 主要ブランドを中心としたブランドエクイティの更なる強化
- ✓ 主要市場におけるシェアの維持・拡大
- ✓ 収益基盤の地理的拡充
- ✓ 新製品カテゴリーの創出

■ 不断のコスト改善

# 国内たばこ事業(見込):

## MEVIUSを中心にブランド・エクイティの更なる向上に注力

- 総需要減少はあるものの、シェア回復及び消費税増税に伴う仮需影響により販売数量は2.4%増を見込む

- ✓ 総需要減少: ▲2%~▲3%
- ✓ 14年4月の消費税増税に伴う仮需: 0.3~0.5か月程度



(億本, 億円, %)	<u>2013年3月期</u>	<u>2014年3月期</u>	<u>対前年増減</u>	<u>対前年増減率</u>
販売数量 <sup>3</sup>	1,162	<b>1,190</b>	<b>+28</b>	<b>+2.4%</b>
自社たばこ製品売上収益 <sup>4</sup>	6,540	<b>6,690</b>	<b>+150</b>	<b>+2.3%</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	2,813	<b>2,910</b>	<b>+97</b>	<b>+3.4%</b>



このスライドは投資家に業績を説明する目的で作成されたものです。消費者へのたばこの販売促進もしくは喫煙を促す目的ではありません。

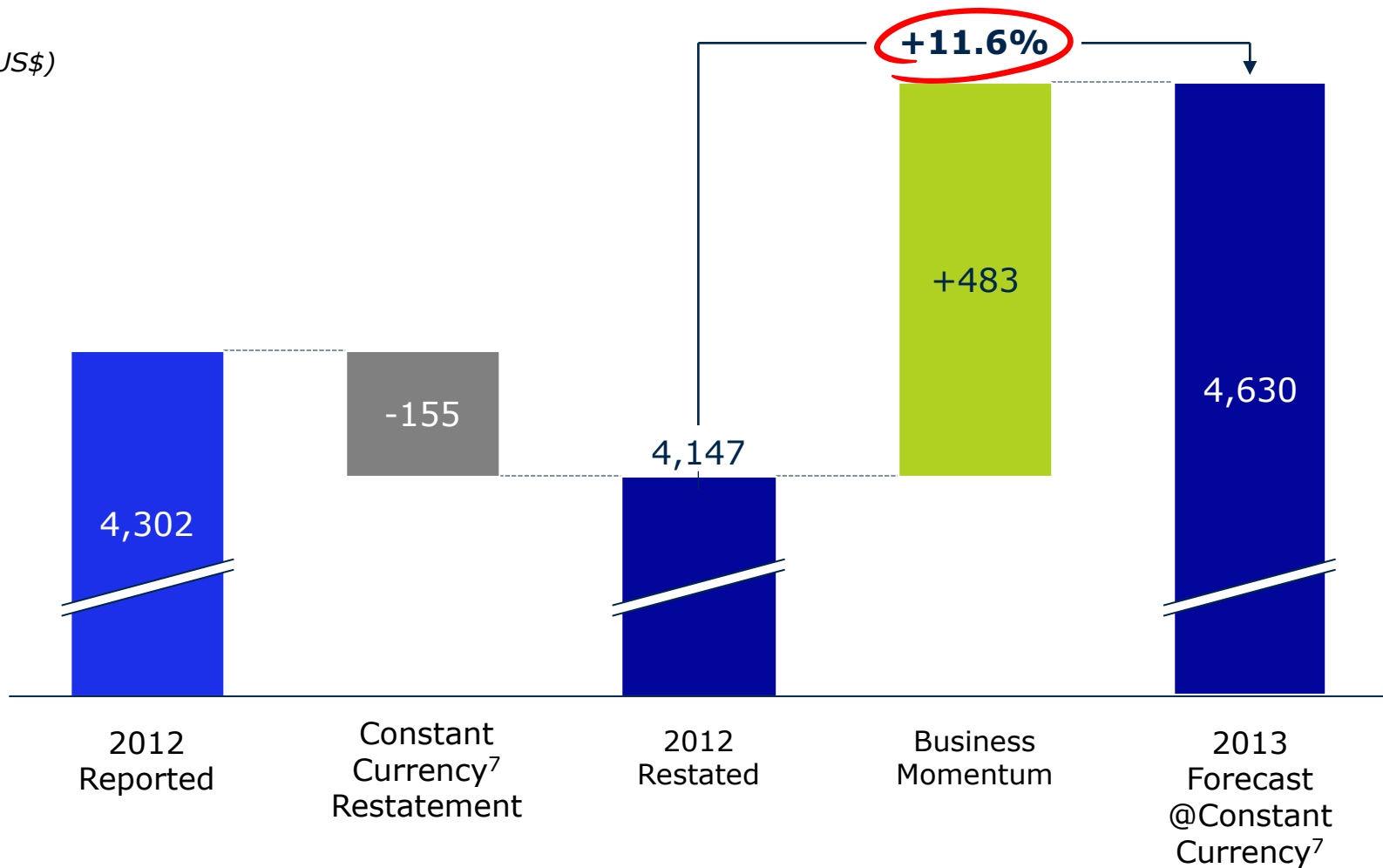
# 海外たばこ事業(見込): 為替一定ベース調整後EBITDA2ケタ成長を見込む

(億本, 百万US\$, %)	2012年	2013年	対前年増減率
総販売数量 <sup>5</sup>	4,365	<b>4,320</b>	<b>-1.0%</b>
GFB販売数量	2,688	<b>2,730</b>	<b>+1.6%</b>
<u>為替一定ベース<sup>7</sup></u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	11,655	<b>12,550</b>	<b>+7.7%</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	4,147	<b>4,630</b>	<b>+11.6%</b>
<u>報告ベース</u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	11,817	<b>12,450</b>	<b>+5.4%</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	4,302	<b>4,630</b>	<b>+7.6%</b>
<u>円ベース(億円)</u>			
自社たばこ製品売上収益 <sup>6</sup>	9,431	<b>11,820</b>	<b>+25.3%</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	3,433	<b>4,400</b>	<b>+28.2%</b>

# 海外たばこ事業(見込): GFB伸長、単価上昇効果がドライバー

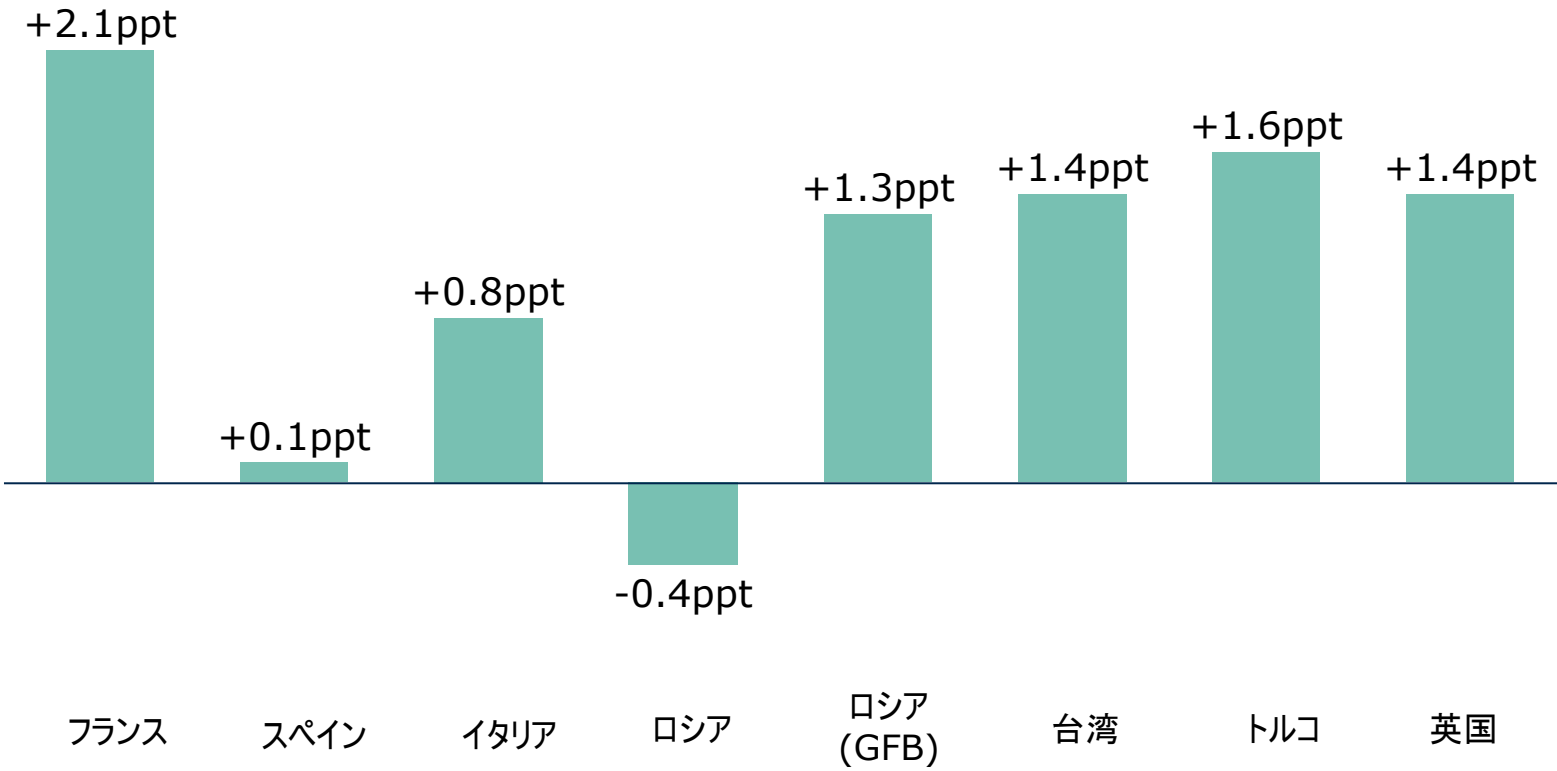
## 調整後EBITDA<sup>1</sup>

(百万US\$)



# 海外たばこ事業(1-3月期速報): ほぼ全ての主要市場でシェア伸長

主要市場シェア\*増減  
(2012年3月vs2013年3月)

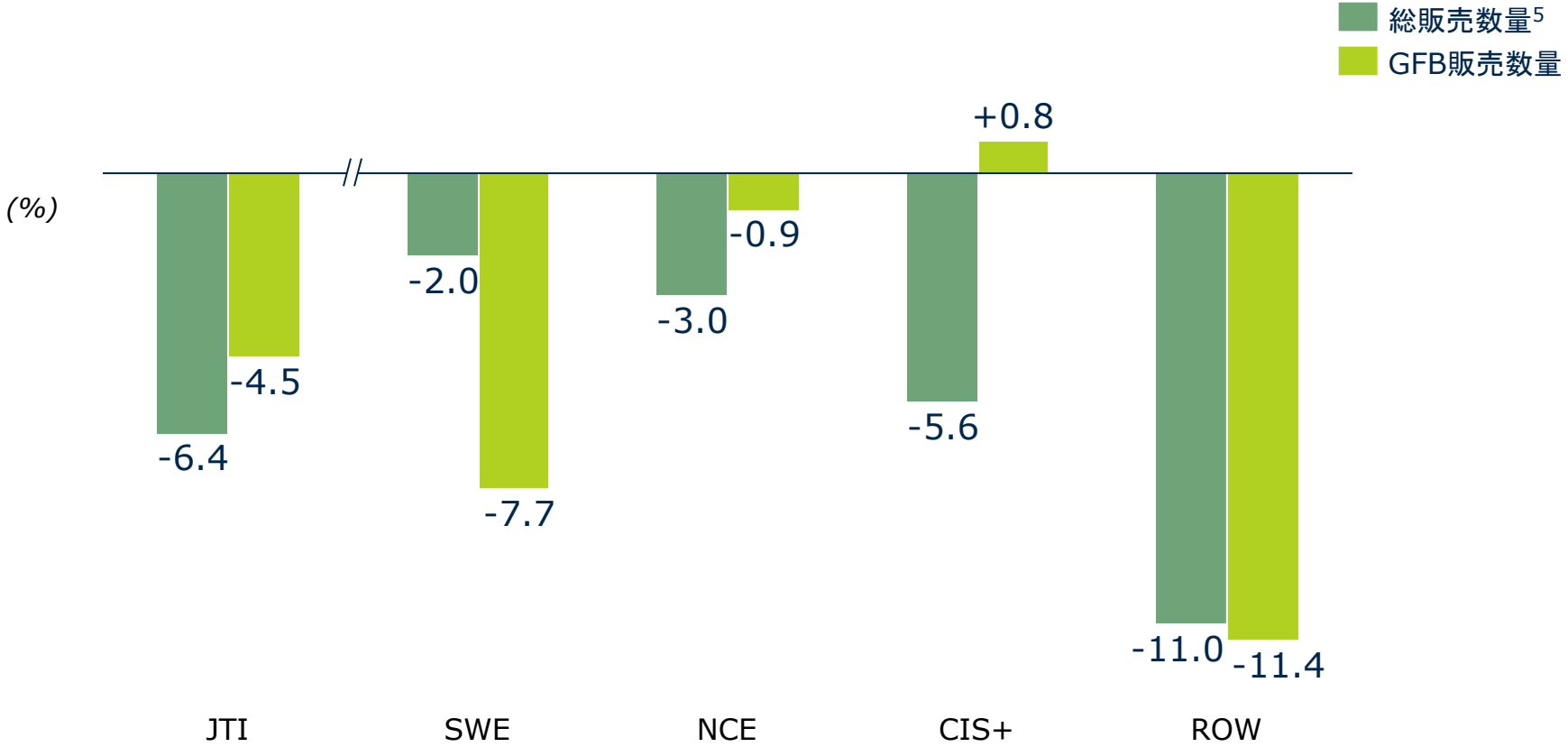


\*12ヶ月移動平均  
Source: Nielsen, Logista, Altadis



海外たばこ事業(1-3月期速報):  
 総需要減少、流通在庫調整の影響

販売数量成長率  
 (2012年1-3月期vs2013年1-3月期)

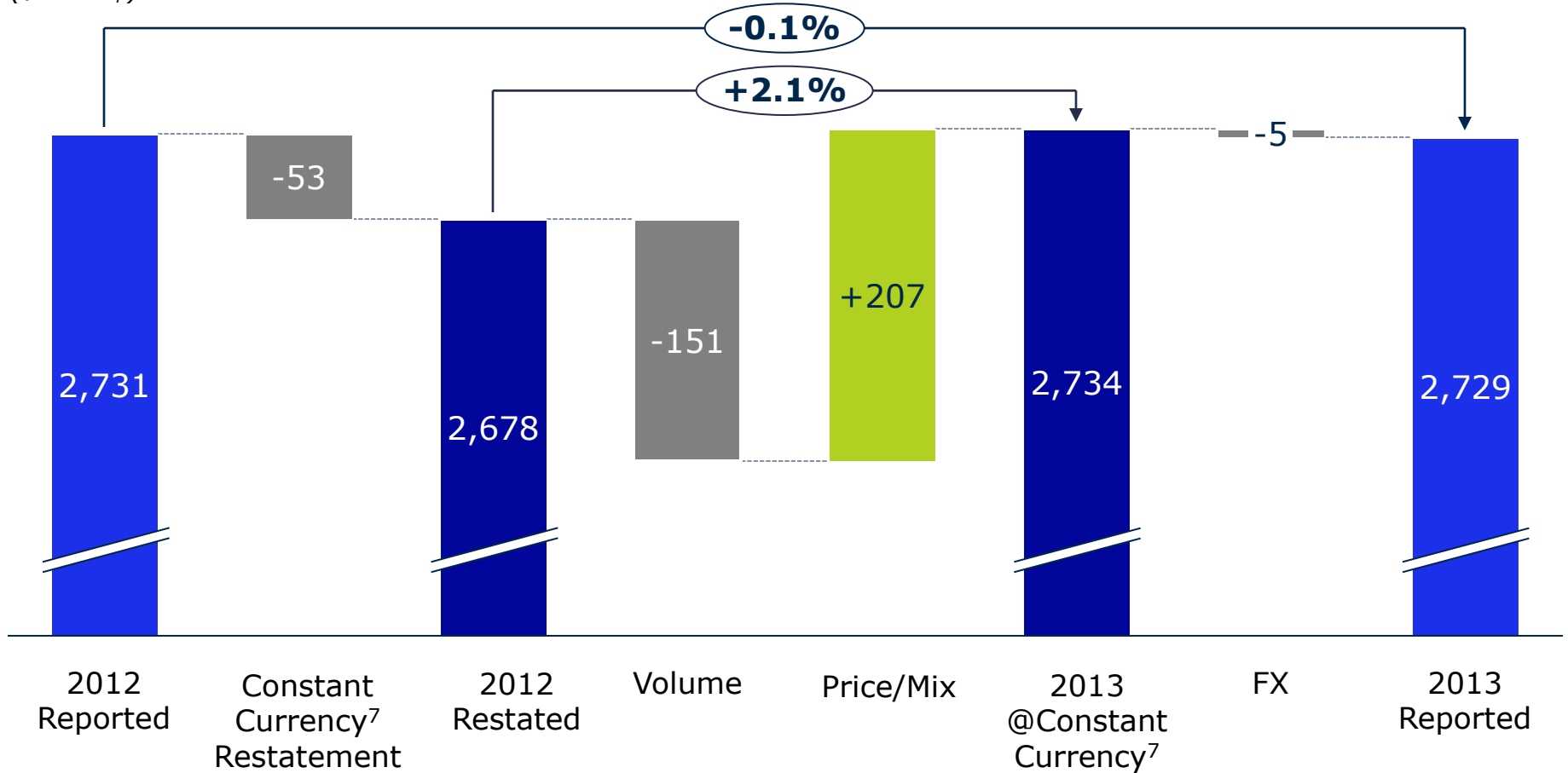




海外たばこ事業(1-3月期速報):  
 単価上昇効果により自社たばこ製品売上収益は2.1%成長

自社たばこ製品売上収益<sup>6</sup>

(百万US\$)



# 医薬事業

ひとの  
ときを、  
想う。 

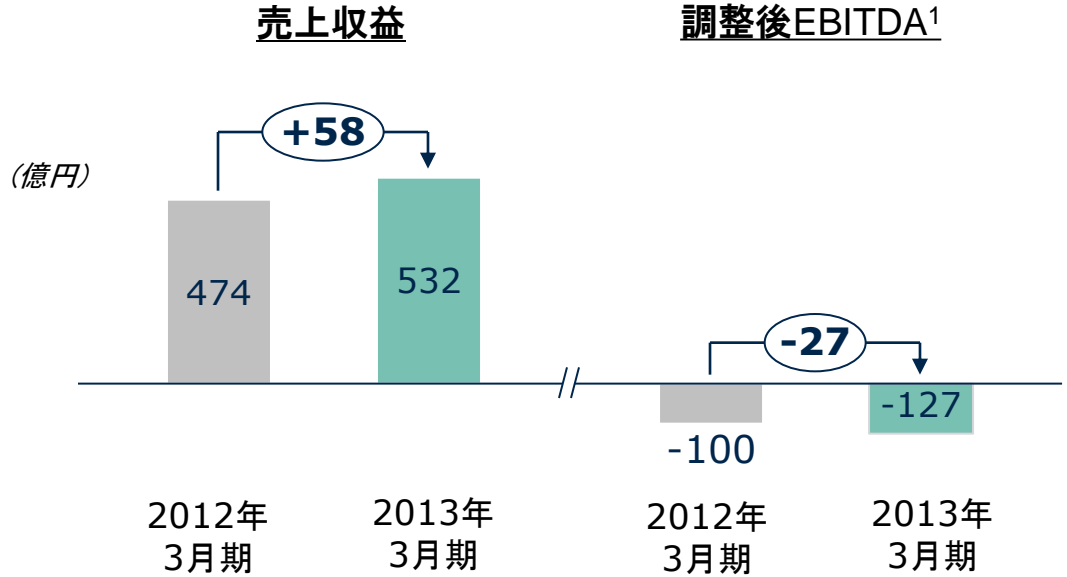
**医薬事業(実績):**  
**収益基盤の確立に向け、着実に進捗**

**売上収益**

- 鳥居薬品での、レミッチカプセル、ツルバダ配合錠の伸長
- JTでの一時金収入の増

**調整後EBITDA**

- 開発の進展に伴う、研究開発費の増



**【後期開発品の状況】**

- JT初のオリジナル新薬(JTK-303)を含む「スタリビルド®配合錠」(HIV感染症)の承認取得・上市
  - ✓ 導出先: 米国上市、欧州申請中
    - : JTK-303単剤としても米国、欧州で申請中
  - ✓ 国内: 承認取得(5月14日発売)
- MEK阻害剤(メラノーマ)の導出先における承認申請
- 国内マーケットを対象とした2品の承認申請
  - ✓ JTT-751(高リン血症)
  - ✓ 鳥居薬品におけるTO-194SL(スギ花粉症)



医薬事業(見込):  
収益基盤強化を受け、業績改善見込

中長期目標と  
役割

■ 後期開発品の迅速且つ円滑な上市および各製品の価値最大化を通じ、収益基盤の更なる強化を目指す

- 後期開発品の迅速/円滑な上市、および各製品の価値最大化
- 次世代戦略品の研究開発推進と最適タイミングでの導出

【2014年3月期見込】

- 鳥居薬品増収、一時金・ロイヤリティ収入増により、増収・損失改善を見込む

(億円)	2013年3月期	2014年3月期	対前年増減
売上収益	532	595	+63
調整後EBITDA <sup>1</sup>	-127	-105	+22



# 飲料事業

ひとの  
ときを、  
想う。 

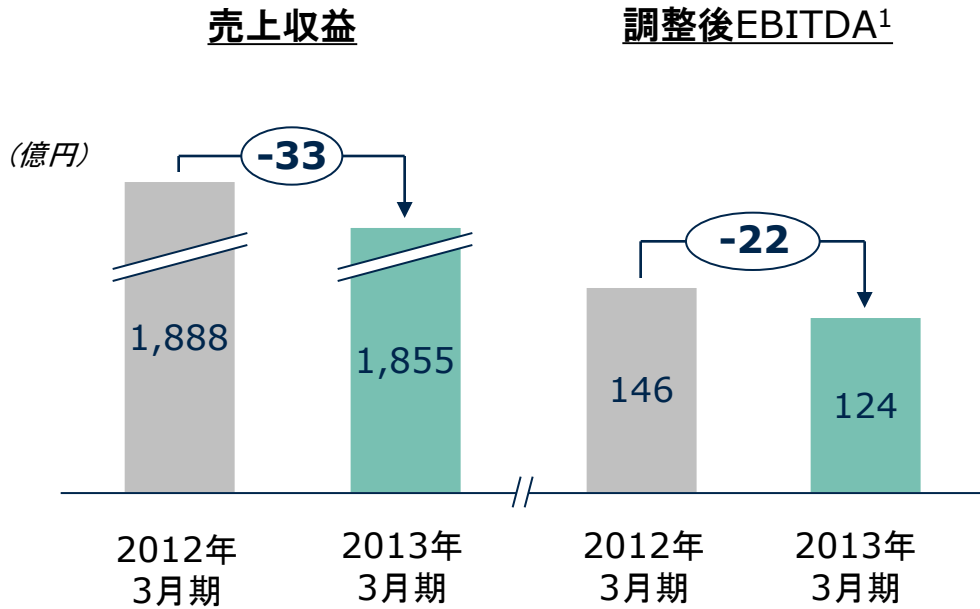
飲料事業(実績):  
 当社製品販売数量が過去最高を記録

売上収益

- 当社製品販売数量の増加があるも、自販機販路におけるカップ機等の売上収益減少の影響等を受ける

調整後EBITDA

- 減収影響に加え、販売チャネル構成の変化等



ひとの  
 ときを、  
 想う。 JT

飲料事業(見込):

ルーツに次ぐブランドとして桃の天然水の育成、事業基盤の強化に注力

中長期目標と役割

■ 将来の成長に向けた事業基盤の強化により、グループへの更なる利益貢献を目指す

- 桃の天然水に対するブランド・エクイティ投資
- 質の高い自販機オペレーションの更なる強化

(億円)	2013年3月期	2014年3月期	対前年増減
売上収益	1,855	1,870	+15
調整後EBITDA <sup>1</sup>	124	105	-19



# 加工食品事業

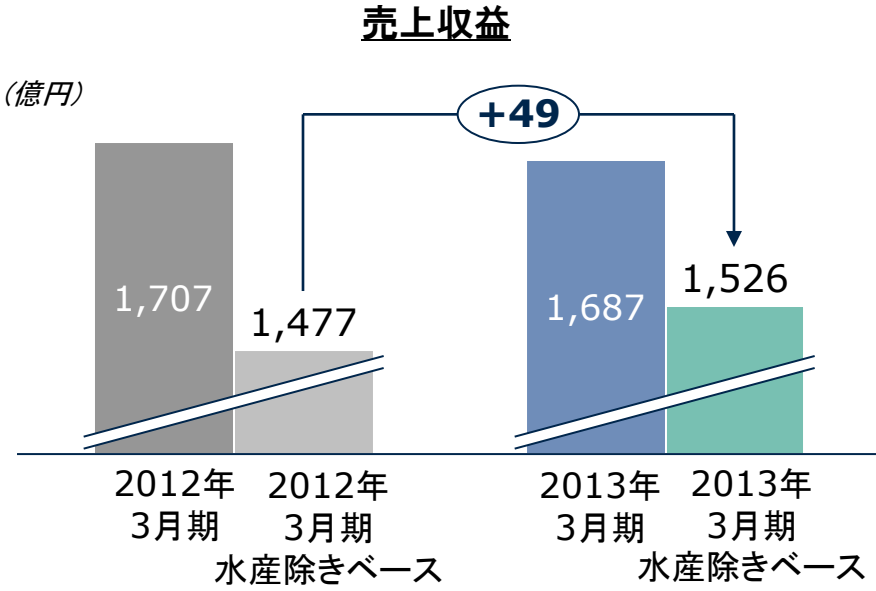
ひとの  
ときを、  
想う。 



# 加工食品事業(実績): ステープルの伸長に伴うトップラインの着実な成長

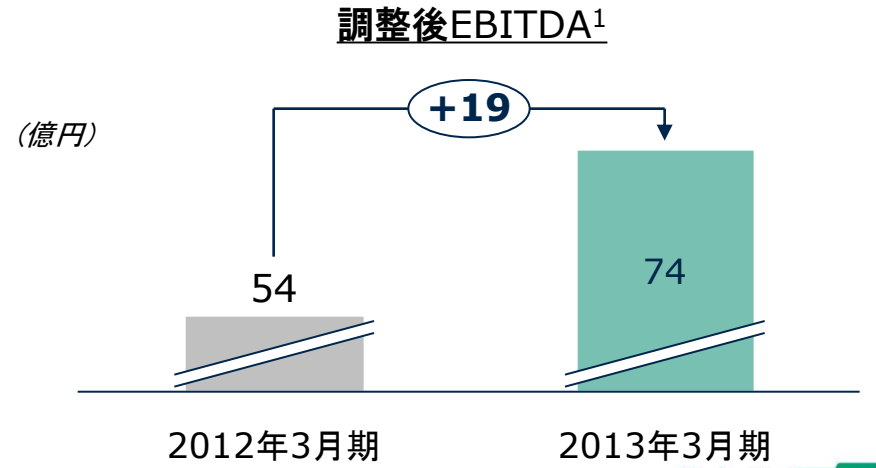
## 売上収益

■ステープルの力強い成長(対前年12.4%増)が牽引し、水産除きのトップラインは伸長



## 調整後EBITDA

■ステープルの伸長による収益力強化も着実に進展  
 ■原材料高騰影響はあるも、前年の費用計上の反動



## 加工食品事業(見込):

ステープルを中心としたトップライン伸長により、利益率の着実な向上を図る

### 中長期目標と 役割

- 少なくとも業界平均に比肩する営業利益率を実現し、グループへの利益貢献を目指す

- 自社の独自技術とお客様ニーズを組み合わせ、ステープルを中心とした商品力を強化
- 原材料高騰影響及び円安影響の極小化

(億円)	2013年3月期	2014年3月期	対前年増減
売上収益	1,687	<b>1,590</b>	<b>-97</b>
売上収益 (水産除き)	1,526	<b>1,590</b>	<b>+64</b>
調整後EBITDA <sup>1</sup>	74	<b>95</b>	<b>+21</b>

# 経営資源配分の考え方 株主還元方針

## 4Sモデルに基づき、中長期の経営資源配分を実行

- 中長期の持続的な利益成長につながる事業投資を最優先
- 加えて、グローバルFMCG業界における競争力ある株主還元を追求

### 事業投資・資本政策

- たばこ事業の成長投資を最重要視
- 医薬・飲料・加工食品事業は、将来の利益貢献につながる基盤強化に向けた投資に注力
- 事業環境の変化に機動的に対応し、事業投資を実施できる柔軟性を追求。一方で、新株発行に制約を受ける
- そのために、十分な資金調達余力の確保が必要。具体的には、
  - ✓ より強固な財務体質を確立
  - ✓ 金庫株は当面の間消却しない

### 株主還元の方針

- グローバルFMCG業界における競争力ある株主還元を追求
  - 配当性向は、グローバルFMCGプレイヤーに比肩する水準を目指す
  - 調整後EPS成長率は、年平均high single digit成長を目指す
    - ✓ 事業成長による向上を基本とするが、目標達成を補完する手段として自社株買いも検討

## 終わりに

- 2013年3月期は、厳しい事業環境の中においても力強い実績を達成
  - ✓ 為替一定ベース調整後EBITDAは当初想定を上回る対前年+15.1%成長
- 加えて、株主還元も着実に強化
  - ✓ 配当性向は37.6%を達成
  - ✓ 好調な事業モメンタムを主因として調整後EPSは為替一定ベースで27.3%成長を達成
  - ✓ 政府株放出時、約2,500億円の自社株買いを実施
- 2014年3月期は、過去最高益を更新する見込み
  - ✓ 為替一定ベース調整後EBITDA6.1%成長
- 配当性向40%の実現を目指す

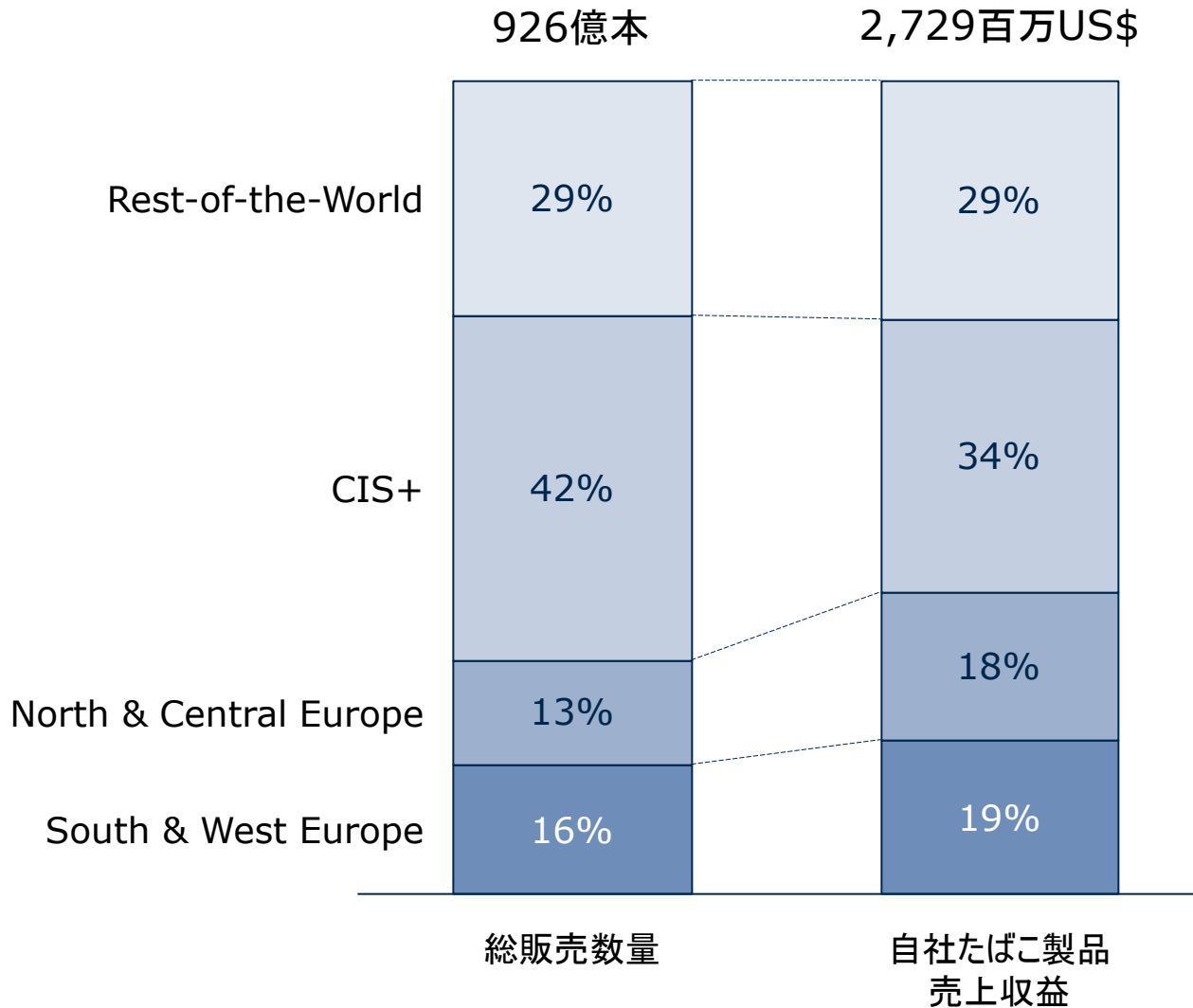
調整後EPS=[当期利益(親会社所有者帰属)±調整項目(収益及び費用)\*  
±(調整項目にかかる税金相当額及び非支配持分損益)]/(期中平均株式数+新株予約権による株式増加数)  
\*調整項目(収益及び費用)=のれんの減損損失±リストラクチャリング収益及び費用等

## <注記>

- 1 調整後EBITDA: 調整後EBITDA=営業利益+有形固定資産の減価償却+無形資産の償却費  
+調整項目(収益及び費用)\*
- \*調整項目(収益及び費用) = のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
- 2 当期利益: 親会社の所有者に帰属する当期利益
- 3 販売数量:  
(国内たばこ事業) 国内免税販売及び中国事業部分を含まない
- 4 自社たばこ製品売上収益:  
(国内たばこ事業) 輸入たばこ配送手数料収益等を控除
- 5 総販売数量:  
(海外たばこ事業) 水たばこ/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus込み  
(2013年3月期実績には水たばこは含まない)
- 6 自社たばこ製品売上収益:  
(海外たばこ事業) 物流事業、製造受託等を除き、水たばこの売上込み  
(2013年3月期実績には水たばこの売上は含まない)
- 7 為替一定:  
(海外たばこ事業) 為替一定ベースの指標は、当年の実績を前年の為替レートに基づき算出し直したものです。2013年において、大幅な為替変動、為替価値下落、インフレが生じている市場の実績(もしくは見込)は、財務報告ベースおよび為替一定ベースの指標とも、実績為替レート(見込の場合は、想定為替レート)に基づいて算出しております。同様の方法で、当該市場における2012年の為替一定ベースの実績についても算出し直しています。ただし、為替一定ベースの実績については追加的に提供しているものであり、国際会計基準(IFRS)に基づく財務報告に代わるものではありません。

# 補足資料

<Back up data> 海外たばこ事業  
4クラスター別構成比(1-3月期速報)





<Back up data> 海外たばこ事業  
主要市場シェア(12ヶ月移動平均)

	<u>2012年</u> 3月	<u>2013年</u> 3月	増減
France	16.1%	18.2%	+2.1ppt
Spain	20.6%	20.7%	+0.1ppt
Italy	20.7%	21.5%	+0.8ppt
Russia	36.9%	36.5%	-0.4ppt
(GFB)	20.9%	22.2%	+1.3ppt
Taiwan	37.9%	39.3%	+1.4ppt
Turkey	24.7%	26.3%	+1.6ppt
UK	38.4%	39.8%	+1.4ppt

Source: Nielsen, Logista, Altadis

<Back up data> 海外たばこ事業  
総販売数量成長率(対前年同期)

	<u>2013</u>
	<u>1-3月</u>
<b>JTI</b>	<b>-6.4%</b>
<b>South &amp; West Europe</b>	<b>-2.0%</b>
Spain	1.7%
Italy	-15.7%
France	8.3%
<b>North &amp; Central Europe</b>	<b>-3.0%</b>
UK	-8.2%
Ireland	4.0%
Austria	4.2%
Sweden	10.5%
Poland	-5.3%
<b>CIS+</b>	<b>-5.6%</b>
Russia	-4.3%
Ukraine	-17.2%
Kazakhstan	-5.9%
Romania	1.5%
<b>Rest of the World</b>	<b>-11.0%</b>
Turkey	3.0%
Taiwan	2.9%
Canada	-8.7%
Malaysia	-5.8%

<Back up data> 海外たばこ事業

GFB販売数量

(億本)	2012年 1-3月	2013年 1-3月	増減
GFB販売数量	611	584	-4.5%
Winston	313	296	-5.4%
Camel	96	91	-5.2%
Mild Seven/ MEVIUS*	45	44	-1.7%
B&H	26	23	-10.2%
Silk Cut	9	8	-10.6%
LD	98	98	0.2%
Sobranie	3	5	32.9%
Glamour	20	18	-11.5%



\*シンガポール、韓国で名称変更済み

	増税	値上げ
Italy	11年9月 <sup>i)</sup>	11年7月、9月 12年3月
France	13年1月 <sup>ii)</sup>	11年10月 12年10月
Spain	12年4月、9月 <sup>ii)</sup> 13年1月	11年6月-9月に 一時的に値下げ 12年4月、9月 13年1月
UK	11年1月 <sup>i)</sup> 、3月 12年3月 13年3月	11年1月、3月、9月 12年3月、9月 13年3月
Russia	11年1月 12年1月、7月 13年1月	11年6月、12月 12年6月、12月
Turkey	11年10月 13年1月	11年10月 13年1月
Taiwan	11年9月 <sup>ii)</sup>	11年3月-4月 <sup>iii)</sup> 、9月 12年8月-9月 <sup>iii)</sup>

*i) VAT課税率の引上げ*

*ii) 税制の変更*

*iii) 各月一部銘柄*

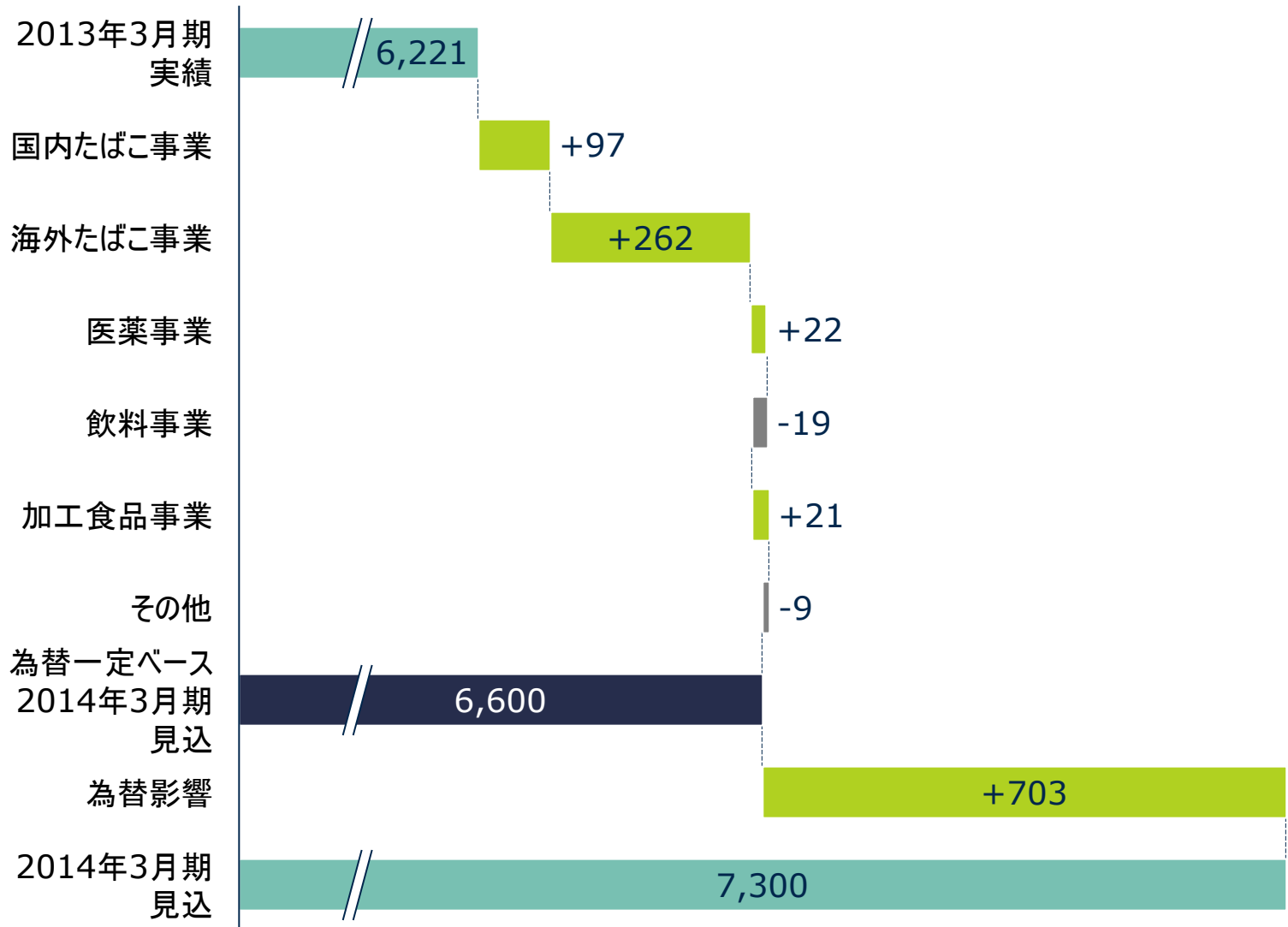
<Back up data> 海外たばこ事業  
前提為替レート

	<u>2012年</u> 実績	<u>2013年</u> 見込	<u>対前年</u>
RUB/\$	31.07	31.00	0.2%高
GBP/\$	0.63	0.66	4.4%安
EUR/\$	0.78	0.80	2.7%安
CHF/\$	0.94	0.96	2.3%安
TWD/\$	29.57	29.71	0.5%安
円ドル	79.81	95.00	16.0%安

<Back up data> 海外たばこ事業  
実績為替レート

	<u>2012年</u> <u>1-3月</u>	<u>2013年</u> <u>1-3月</u>	<u>対前年</u>
RUB/\$	30.15	30.40	0.8%安
GBP/\$	0.64	0.64	1.1%安
EUR/\$	0.76	0.76	0.8%高
CHF/\$	0.92	0.93	0.9%安
TWD/\$	29.71	29.47	0.8%高
円ドル	79.35	92.46	14.2%安

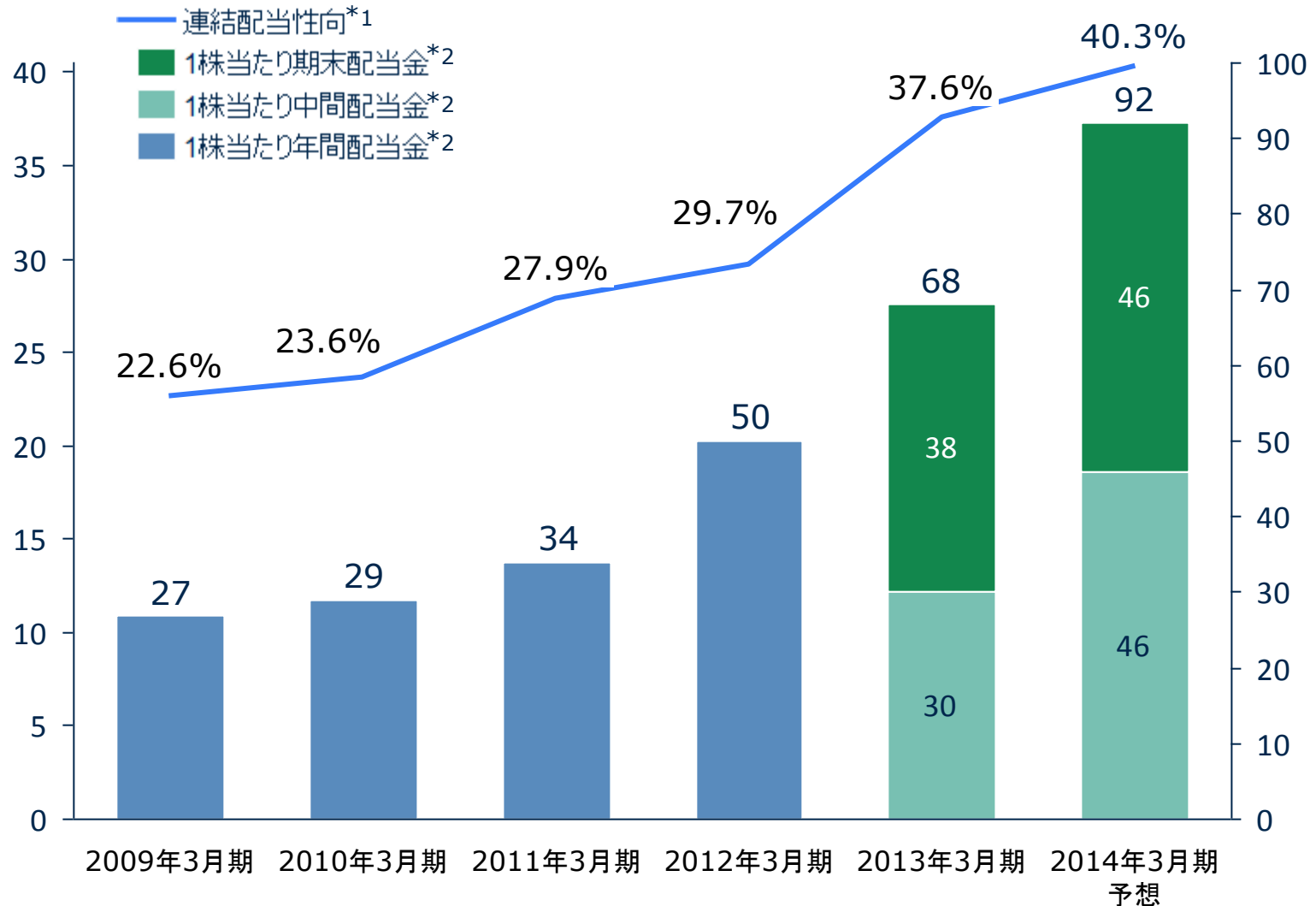
# <Back up data> 全社見込 調整後EBITDA増減内訳



\*億単位未満四捨五入等ノイズあり



# <Back up data> 配当 配当金・連結配当性向の推移



\*1 2011年3月期以前は日本基準ベースにおけるのれん償却影響を除く連結配当性向、2012年3月期以降はIFRSベースにおける連結配当性向

\*2 2012年7月1日を効力発生日として1株につき200株の割合で株式分割を行っており、遡って当該株式分割が行われたと仮定して算定した数値